



石狩地域森林ふれあい推進センターでは、小・中学生を対象とした森林教室や台風被害跡地における森林再生に向けた取組などを行っています。今回は昨年度実施した取組のうち、いくつかを紹介します。

【森林教室】

○第1回森林教室(5月実施)(定山溪小・中学校)

「身近な自然を観察しよう・保護しよう」と題して、定山溪の三笠緑地にある国有林で小学生・中学生合同で植生の開花調査を行いました。

この開花調査は環境保全活動の一環として平成25年から継続して実施しています。



○第2回森林教室(6月実施)(定山溪小学校)

「森の中で新発見! 森の生きもの観察・森の循環」と題して、森林の中を歩きながらクマゲラの採餌跡、エゾシカの食痕、キノコなどを発見し、森の生きものを観察しました。また、針葉樹の幼樹や腐朽菌によって腐朽が進む大木などを観察し、森の循環についても学びました。



○第3・4・5回森林教室(定山溪中学校)

生徒が描く『夢の森づくり』として、中学校が森林環境学習の場としている「夢の森」の整備等を通じて様々な体験をしています。

第3回(7月実施)は、植栽箇所の下草刈り、広場や遊歩道の不要な樹木の伐採、カミネッコンを用いてポット苗の作製と植栽を実施しました。

第4回(9月実施)は、日時計の補修、樹名板・巣箱の設置、ヤナギの挿し木、シイタケほだ木の観察を実施しました。また、生徒からの要望を踏まえて設置した「夢の森ブランコ」に乗った際は、森の風や香りを体験できたことでしょう。



第5回目（2月実施）は、冬季の森林教室開催の要望を受け、雪中でスノーシューを履いて「夢の森」を散策しながら、動物の痕跡や野鳥観察する森林教室を実施しました。



雪中での樹木観察の様子

○森づくり活動発表会（定山溪中学校）

中学生が、環境学習、森林保全、自然とのふれあい・観察等の活動実績を紹介する「森づくり活動発表会」を定山溪中学校で開催しています。

令和5年度は「Let's grow with the forest.」と題して、令和5年度に実施した「夢の森」での活動内容等の報告、「夢の森」の将来像等についてのディスカッションを行いました。



「夢の森」の将来像についてディスカッション

【野幌森林再生プロジェクト】

平成16年の台風18号の被害跡地にボランティア団体が植栽・保育等、森林再生に向けた取組を行っています。その自然再生プロジェクトの一つ「野幌森林づくり塾」は、植栽等の森林づくりを体験しながら、森林づくりに関する知識を習得し、

将来的には自主的なボランティア活動の展開につながることを期待した取組です。

令和5年度は16名の応募があり、5月は「森林と水について」と題して、札幌市水道記念館において森から水道水が届くまでを学び、6月は野幌自然休養林内に侵入してきた特別外来生物「オオハングソウ」の除去作業を実施し、10月は「藻岩山きのこと観察会」主催による「きのこ展示・鑑定会」の見学を行いました。

【札幌水源の森づくり】

札幌市の「水源の森」である定山溪の森林の重要性や水と森林のかかわりを普及啓発するため、市民参加によるポット苗木づくり、協力団体による定山溪国有林で植栽や下刈りを行っています。

18回目となる「札幌水源の森づくり2023」（創成川公園で開催）は、市民約200名にポット苗木を作成していただき、ボランティアの方々とともに国有林へ植栽することができました。



市民の皆さんが作った苗木ポット

【おわりに】

引き続き、森林環境学習の支援、野幌の森林再生、定山溪の水源となる森林の重要性の普及などについて、市民の皆さんに楽しんでもらいながら、取り組んでいきたいと考えています。